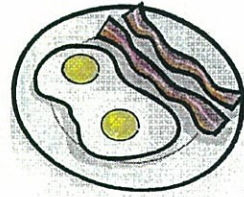


2011年3月11日、午後2時46分。東日本大震災が起こった。マグニチュード9.0の強い揺れが東日本を襲い、そして最高40.5mにもなる大津波が太平洋側の地域を飲み込んだ。それは建物や人だけでなく、産業や文化までもを奪っていったのだ。残ったのは更地。そこには愛する人の亡骸も遺品もない。家族を失った人、住む家を失った人、職を失った人…皆これが現実なのか目を疑ったであろう。まだ雪が多く残る東北地方。身を寄せ合い、寒さを凌ぐ日々。突如起こった出来事に対応しきれない状態が続くなかで、「今、自分に出来ること」…皆が考えたであろう。募金をする者、救援物資を送る者、それぞれが自分たちの出来ることに精一杯取り組んだ。

建築を学ぶ私には何が出来るであろうか？

“衣・食・住”



救援物資として送ることが出来ないもの。それは“住”…そう、住む場所です。被災者のほとんどは仮設住宅に入居します。しかし仮設住宅に入居するためには審査が必要です。また、仮設住宅を建てるまでも時間がかかるため、暫くは避難所での生活が強いられ、次第に「壁が欲しい」という被災者が増えます。兎に角、一刻も早く壁に囲まれた生活がしたいというのが被災者の切なる願いなのです。

そこで私は次の4つをコンセプトとした避難所生活を提案します。

1. 自治会を越えたコミュニティ
2. 早期対策
3. 我が家のような快適な暮らし
4. 資源の再利用

つまり、このキットさえあれば被災者のためにもなり、環境にも優しいのです。これが実現すれば避難所で過ごす際の“壁”の役割だけでなく、また組み方次第で“仮設住宅”にも成り得ます。「壁が欲しい」その言葉に答えられるのがこの提案であり、壁に屋根をかければ仮設住宅になるという考えなのです。

私たちの住む秋田県、並びに東北地方は広大な自然があり、たくさんの木々に囲まれています。秋田県はその木を使用して作る木材チップの生産が盛んです。その木材チップを接着剤と混合し、熱圧成型するとパーティクルボードになります。今回の提案は木材チップを同じ要領でブロックにするというものです。次のようなメリットから、このパーティクルブロックが実現すれば、被災者の生活は少しでも楽なものになると私は提言します。

新しき至福の境地

壁の温もり

1. 自治会を越えたコミュニティー

《壁にした場合》

- キットさえあれば自分たちで壁をつくることができる。
- 協力し合って組み立てることで「コミュニティー」が生まれる。
- ブロック自体が軽量のためお年寄りも自分で組み立てることができる。

《仮設住宅にした場合》

- キットさえあれば自分たちで建てることができる。
- 協力し合って建てることで、自治会がなくても横の繋がりができ、その後の生活でも“近所付き合い”が生まれる。
- ほとんどのお年寄りは高いところなど自分で建てることはできない。よって若者が手伝ってあげること、お年寄りも喜び、いい刺激になる。

2. 仮設住宅への早期の入居

《壁にした場合》

- 軽量のため自分たちで組み立てることができ、よって早期に壁を設けることができる。

- パーツの組み方次第で、好きなように壁を組み立てることができる。

《仮設住宅にした場合》

- 軽量のため自分たちで建てることができ、よって早期の入居が可能になる。

- パーツの組み方次第で、好きなようにドアや窓の位置、間取りなどを加減できる。

3. 我が家のような快適な暮らし

《壁にした場合》

- 組み方次第では、1家族のスペースの中でさらに用途によって空間を分けることも可能。

《仮設住宅にした場合》

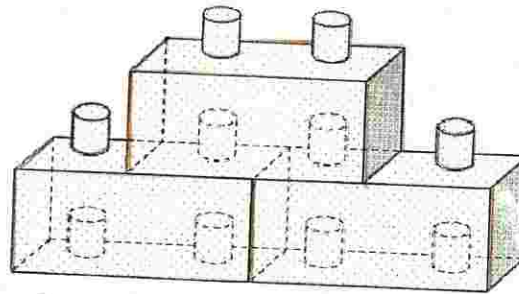
- パーティクルボード自体が断熱性、遮音性に優れている点から、ブロックにしても同様の効果が得られる。
- 窓を磨り硝子にし、ブラインドを気にせず自然換気を行うことができる。

4. 資源の再利用

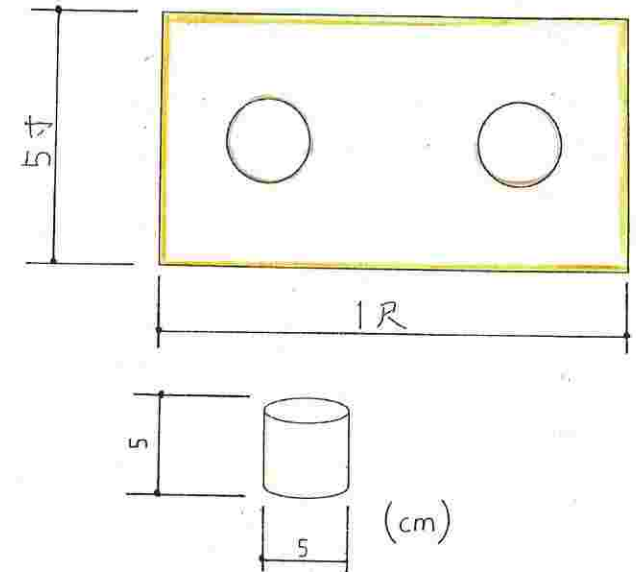
《壁にした場合》 《仮設住宅にした場合》

- 【パーティクル：particle：小片】という意味があり、木材を加工する際にできる木くずも材料として使うことが出来、リサイクルといえ、ECOになる。
- 震災で使い物にならなくなった木材、流木などでも、砕いたりチップにしてしまえば、このパーティクルブロックに生まれ変わることができる。

■イメージ図



■ブロック寸法

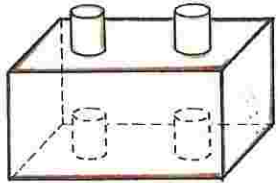


開口部などは全てブロックの中に埋め込まれているため、自分の好きな位置に取り付けることができます。主なブロックとしては、壁用・壁用の半分の材・屋根勾配用・玄関戸・部屋戸(引き違い戸)・部屋戸(片開き戸)・窓(大)・窓(小)・換気扇…などがあります。これさえあれば壁としてだけでなく、仮設住宅も完成し、被災者は快適な生活も送ってしまうのです。

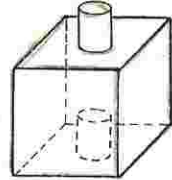
次のページにこれらのブロックのイメージをあげました。自分の描く壁や家…ああしたい、こうしたいという願いは、これらのブロックを組み合わせるだけで完成してしまいます。

子供から老人までが楽しみながら組み立てる姿があなたの目に浮かびませんか？

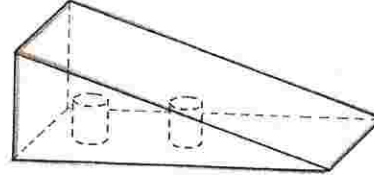
▼壁用
 (縦 × 横 × 高さ)
 (5寸 × 1R × 5寸)



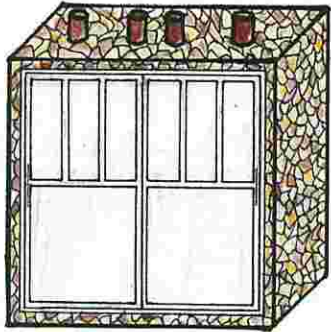
▼壁の半分用
 (5寸 × 5寸 × 5寸)



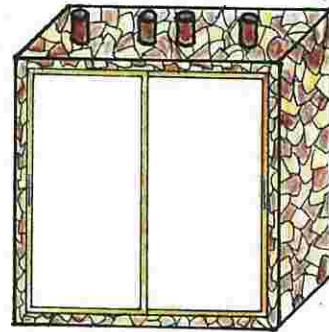
▼屋根勾配用
 (5寸 × 1R5寸 × 5寸)



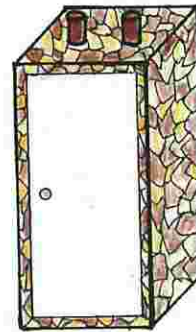
模様有り... ▼玄関戸
 (5寸 × 6R × 6R)



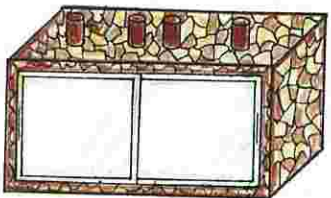
▼部屋戸(引き違い戸)
 (5寸 × 6R × 6R)



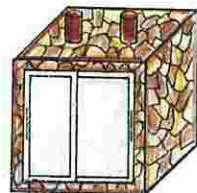
▼部屋戸(片開き戸)
 (5寸 × 3R × 6R)



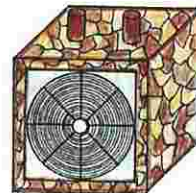
▼大窓
 (5寸 × 6R × 3R)



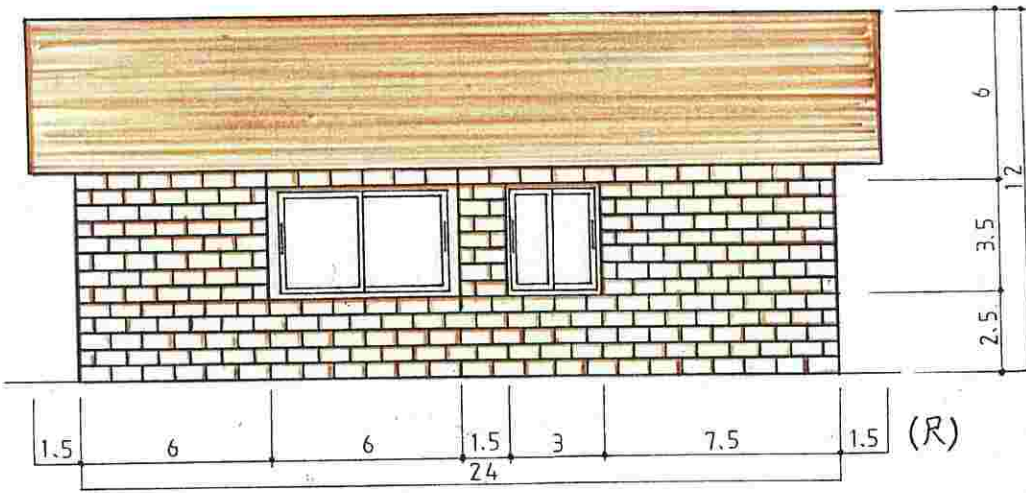
▼小窓
 (5寸 × 3R × 3R)



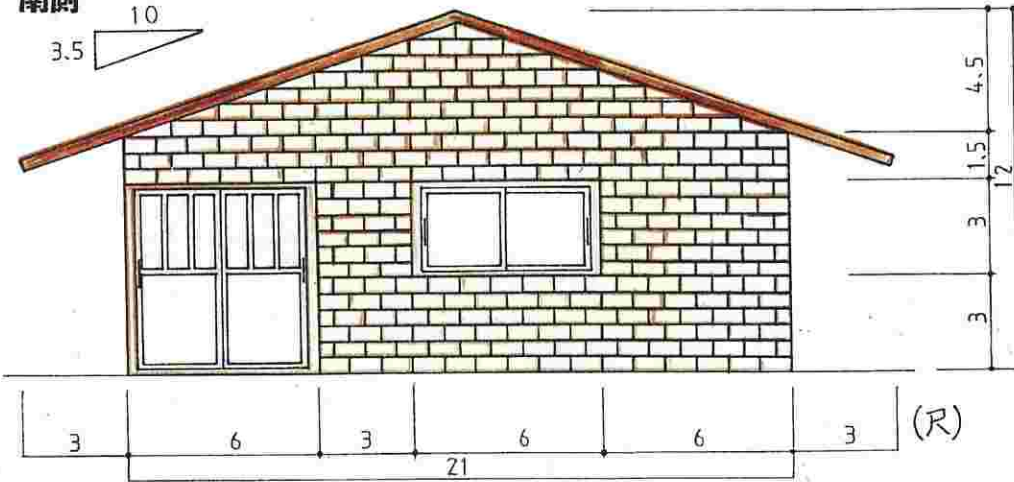
▼換気扇
 (5寸 × 1R5寸 × 1R5寸)



■立面図 例) 西側



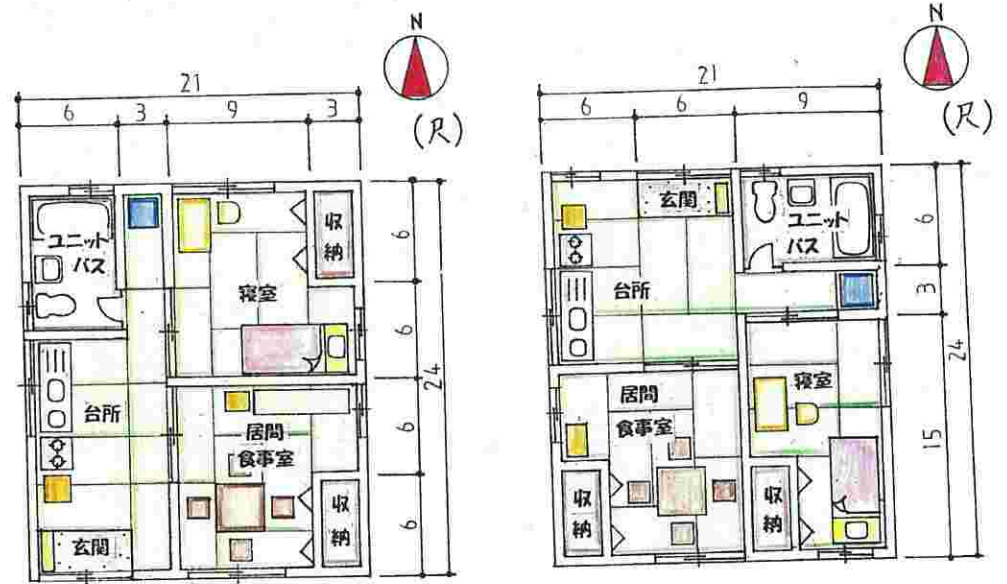
南側



■ 立面図

ブロックを積み重ねているので煉瓦積みのような見た目だが、ブロック自体は木の小片からできているため和洋折衷ともいえる外観である。高さに関してはブロックの数を変えることで高くも低くもなり、仮設住宅にし、壁にし、自分にあった高さで組み立てることができる。仮設住宅にする際の屋根に関しては、パーティクルボードをかけ、切り妻屋根にし、木造住宅を思わせる外観とした。体育館など、避難所で過ごす際、屋根をかけずにブロックを積みば“壁”としての役割を果たす。この1セットで2役の使い道があるのだ。

■平面図 例)



■平面図

このパーティクルブロックを使えば自分の好きなように組み立てられるため、間取りは自由に変えられる。今回は2種類の間取りをあげた。通常の住宅のように居室を南面に配置し、採光良くし、広めの間取りとした。また従来の仮設住宅は窓が少なく、湿気がこもり、風も通らないという課題があった。しかし窓を磨りガラスにすることで、プライバシーを確保しつつ自然換気も可能になる。また寸法は尺貫法を用い、畳が敷きやすいように工夫した。

自分の心を守るために壁を作る
壁を作る際には他人と協力し合う
するとコミュニティが生まれる

壁を作るという作業を通して、心の壁を取っ払う
それが私の描く、被災者の暮らしなのだ